



明治30年代 丸山遊郭方面から大徳寺高台を撮影した写真  
(長崎外国語大所蔵)

## 佐古に向かう勅使坂

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 24 □

写真は明治30年代、丸山 使が通る道として整備され遊郭の建物から大徳寺高台 たことから、勅使坂と呼ぶを撮影している。左の家並 れるようになった。  
み(丸山公園付近)から大 真言宗の大徳寺は江戸時 徳寺に上る坂道は「勅使坂」 代に檀家を持たず、寄付を と呼ばれた。 していた唐船貿易も衰退

ちなんで大楠神社と改められ、「寺がないのに大徳寺」と長崎の七不思議にうたわれるようになった。  
境内には長崎から戊申戦争に出撃した振遠隊の戦死者の墓が建てられ、神社前(梅ヶ枝焼茶屋の横)には梅香崎招魂社と呼ばれた祭祀場が設けられた。大徳寺公園の広場には石柱に長崎府と刻まれた大楠神社の鳥居が残る。明治7(1874)年の台湾の役(台湾出兵)で戦死者の墓地が増設され、長崎病院の新築場所ともなったため墓地と招魂社は佐古に移された。

勅使坂を上った左の高台には大クスノキと隣接する楠稻荷神社の鳥居が見える。その右の3階建ては料亭翁と思われる。左の一本松横の大きな屋根は、精得館(小島の養生所・医学所)の理化学研究施設であった旧分析窮理所である。明治20(1887)年から第五高等学校医学部の分教室として使われていたが、明治39年から佐古尋常高等小学校の校舎となっていた。

左の丸山・寄合の木造3階建ての遊郭は大きくて立派である。町家にはしつこい瓦屋根が多い。勅使坂に沿った民家や左端の脇山別邸と思われる屋敷には白壁の土蔵が見える。これらはみな貿易でにぎわった明治30年代の長崎の豊かさを象徴している。

(長崎外国語大長)

# 天皇制の浸透と豊かな街

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ (<http://www.nagasaki-igo.ac.jp/rechnas/newspaper/>) で見ることが出来ます。



長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード

随時掲載します